

インターバンクの声（2016年6月28日）

英国の欧州連合(EU)離脱決定で世界経済の先行きに対する不透明感がますます広がっているが、為替市場は英国国民投票の開票当日のアジア市場からロンドン市場までの動きが激し過ぎたこともあって、昨日は一日を通して静かな相場になったように錯覚してしまった。金曜日には半日足らずの間に7円以上も動いたドル/円は、週が明けた昨日は東京市場からニューヨーク市場まで上下1円程度の値幅に留まり、金曜日に500ポイント下落したユーロ/ドルも同じように100ポイント程の値幅の中で落ち着いた動きになった。ただ、過去およそ30年続いた1.40ドルから2.21ドルのレンジから一気に抜け出して1.32ドル台まで暴落したポンド/ドルは依然として激しい動きを続けている。昨日も上下の値幅が350ポイント以上もあった。何やら英国のEUからの離脱を推し進めてきた英政治家の公約や発言に嘘があったなど信じられない事態にもなっているが、いまさら時間を元に戻すわけにも行かず、英国のEU離脱決定による市場の混乱は暫く続きそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。